第6章

避難所に対する評価

6-1　避難所の指定について

6-2　避難所における情報入手

今回の水害で避難した住民のうち、避難所への避難は1/3程度であり、多くの住民は避難所以外の親戚・知人宅などへ避難している（4-1､5-2 参照）。指定避難所に全ての人が避難する必要はないものの、避難所での生活が不快であるが故に避難所に行かない人もいるのは事実であり、避難所の環境は改善できることはすべきであろう。

そこで、ここでは、今回の水害において市などから指定された避難所に関する住民評価の実態を把握する。分析の視点としては、実際に指定された避難所と洪水ハザードマップに示される避難所との一致状況、今回の水害で指示された避難所に対する適切性の評価、避難所における情報入手の状況について、である。

調査項目は、以下のとおりになっている。調査項目の詳細は付録を参照されたい。

問４　今回の水害で市から指定された避難所
問５　今回の水害で市から指定された避難所に対する適切性評価と不適切理由
問14　避難所における情報入手状況
　(1)　情報ニーズ
　(2)　情報入手実態
　(3)　情報入手手段
問18　洪水ハザードマップ指定避難場所と実際に指示された避難場所との一致状況

６－１　避難所の指定について

point
- 今回の水害で指定された避難所に対しては、地域によって異なるものの約半数の住民が適切だと評価している。
- 避難所が不適切であると思う理由としては、「自宅から遠いから」「避難所が浸水すると思うから」などが多く挙げられている。

（１）洪水ハザードマップに示される指定避難所と実際に指示された避難所との一致状況

【実際に指定された避難所（回答による）】

表６－１　実際に指定された避難所（１）

		地域ブロック								合計
		A	B	C	D	E	F	ブロック判別不能	地区無回答	
1	わからない	2	3	3	1	4	7	1	1	22
2	芳賀小学校	0	0	37	86	0	0	0	1	124
3	行健小学校（冨久山）	2	50	1	0	0	0	0	1	54
4	小原田小学校	0	0	22	0	4	1	3	1	31
5	下行合集会所（田村）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	高瀬小学校	0	0	0	0	0	32	0	3	35
7	日和田公民館梅沢分館	0	0	0	0	0	1	0	0	1
8	下萱沼集会所（日和田）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	おおあみ集会所（西田）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	郡山第二中学校	0	0	10	0	0	0	0	1	11
11	清水台地域公民館	0	0	16	0	0	0	0	0	16
12	橘地域公民館	0	0	13	0	0	0	0	0	13
13	橘小学校	0	0	23	1	0	0	0	1	25
14	金透小学校	0	0	22	0	0	0	0	0	22
15	郡山第三中学校	0	0	7	0	0	0	0	0	7
16	名倉地域公民館	0	0	0	0	19	0	0	0	19
17	御代田小学校	0	0	0	0	0	31	1	1	33
18	日大	0	0	0	0	0	33	1	1	35
19	帝京安積高校	0	0	0	0	0	43	1	1	45
20	郡山第五中学校	22	0	1	0	0	1	0	0	24
21	小原田公民館	0	0	3	0	0	0	0	0	3
22	安積三小（安積公民館）	0	0	0	0	47	0	0	0	47
23	東部地域公民館	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24	日和田公民館八丁目分館	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25	冨久山公民館	14	19	0	0	0	0	0	1	34
26	サンライフ郡山（冨久山）	1	24	0	0	1	0	0	0	26
27	大平自治会集会所	0	0	0	0	0	0	0	0	0
28	安積公民館日出山分館	0	0	0	0	5	0	1	0	6
29	東芳小学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30	芳賀地域公民館	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31	神明下集会所（安積）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
32	サンフレッシュ郡山（安積）	0	0	0	0	6	0	0	0	6
33	あぶくま台集会所	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34	日和田公民館高倉分館	0	0	0	0	0	0	0	0	0
35	中央公民館	0	0	0	0	1	0	0	0	1
36	堂坂集会所（冨久山）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
37	南小泉集会所（冨久山）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
38	舞木集会所	0	0	0	0	0	0	0	0	0
39	高倉小学校（日和田）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40	田村公民館	0	0	0	0	0	15	0	0	15
41	郡山商業高校	0	0	0	0	13	0	14	0	27
42	高瀬中学校（田村）	0	0	0	0	0	6	0	0	6
43	行徳小学校（冨久山）	17	5	0	0	0	0	0	0	22
44	郡山東高校	0	0	10	0	4	0	1	1	16
45	守山小学校（田村）	0	0	0	0	0	7	0	0	7
46	谷田川小学校（田村）	0	0	0	0	0	2	0	0	2
47	久留米地域公民館	0	0	0	0	0	0	0	0	0
48	安積第一小学校	0	0	0	0	1	1	0	0	2
49	桜小学校	0	0	0	0	0	9	0	0	9
50	多田野小堀口分校（逢瀬）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
51	広度寺	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表６－２　実際に指定された避難所（２）

		地域ブロック								合計
		A	B	C	D	E	F	ブロック判別不能	地区無回答	
52	鬼生田集会所（西田）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
53	冨久山公民館久保田分館	1	0	0	0	0	0	0	0	1
54	小泉ニュータウン（冨久山）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55	山田原集会所（逢瀬）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
56	西田中学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
57	ふるさとの森スポーツパーク	0	0	0	0	0	1	0	0	1
58	鬼生田小学校（西田）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
59	ジェイク医療福祉技術専門学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60	その他	1	0	14	6	6	13	1	0	41
	合計	60	101	182	94	111	203	24	14	-

【洪水ハザードマップに示される指定避難所と実際に指示された避難所との一致状況】

・図６－１において、今回の水害で指定された避難所と洪水ハザードマップに示される避難所との一致状況を見ると、半数以上の住民が「同じであった」と回答しているものの、38.8%の住民は「違った」としている。
・また、図６－２で地域ブロック別にその一致状況を見てみると、Ｄブロックでは全ての住民が「同じであった」と回答している一方で、Ｆブロックでは78.4%の住民が「違った」と回答しているなど、地域によって今回の水害で指定された避難所と洪水ハザードマップに示される避難所との一致状況は大きく異なる様子がわかる。
・Ｄブロックの住民は、過去に甚大な洪水被害を被った経験から、洪水に対する意識が高く、避難行動も迅速に行われていることが、これまでの分析から明らかとなっている。避難したＤブロックの全ての住民が、洪水ハザードマップに示される避難所と実際に指定された避難所が同じだったと回答していることの背景には、洪水に対する住民意識が高く、各住民が事前に洪水ハザードマップをよく見ていたことや、それにより行政からの避難所の指示を無理なく理解できたこと、などが考えられる。
・Ｆブロックなどでは、市の指定する避難所以外の場所が、町内会長などの自主的な判断により避難所となっていたようである。しかし、浸水の拡大により孤立する危険から、行政は別な場所への２次避難を指示している。Ｆブロックで特に、洪水ハザードマップに示される避難所と実際に指定された避難所が違っていたとする回答が多いことには、このような水害当日の実状が反映されているものと思われる。

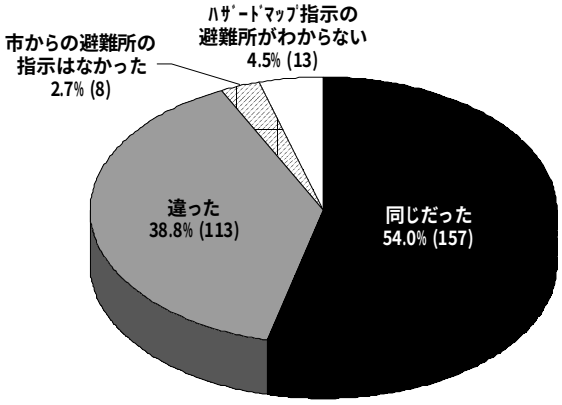

図６－１　洪水ハザードマップに示される指定避難所と今回の水害で実際に指示された避難所との一致状況

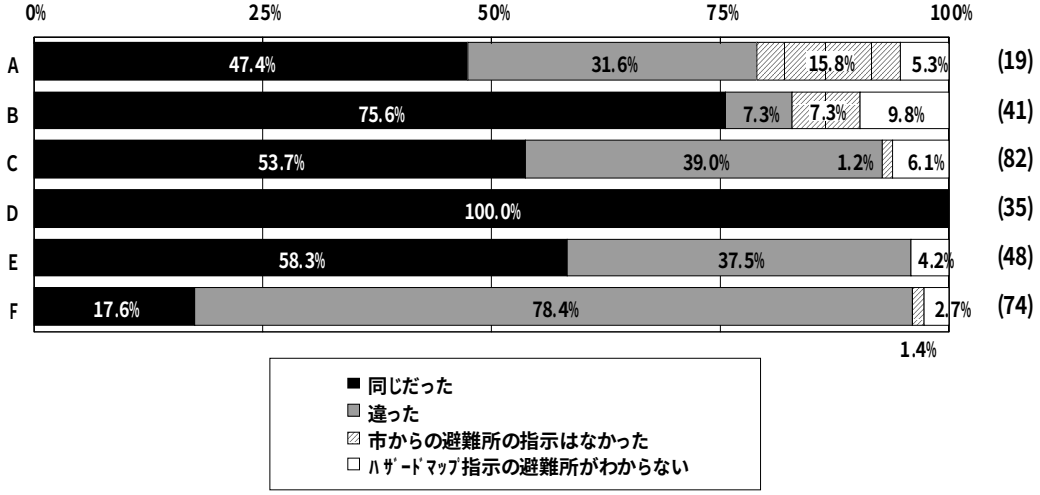

図６－２　洪水ハザードマップに示される指定避難所と今回の水害で実際に指示された避難所との一致状況 (地域ブロック別)

（２）実際に指定された避難所の適切性評価

【避難場所の適切性評価】

・今回の水害で指示された避難所に対する評価としては、「適切だと思う」が最も多く全体の32.6%を占めており、「どちらかというと適切だと思う」をあわせると全体の50.2%となり、過半数を超えている。
・避難所に対する評価を地域別に図６－４で見てみると、適切であると評価する住民はＢＤブロックにおいて多く、逆にＣＥＦブロックでは不適切だと思うという評価が多くを占めている。

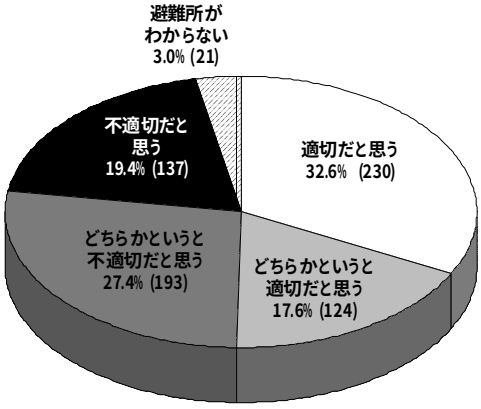

図６－３　今回の水害で実際に指定された避難所の評価

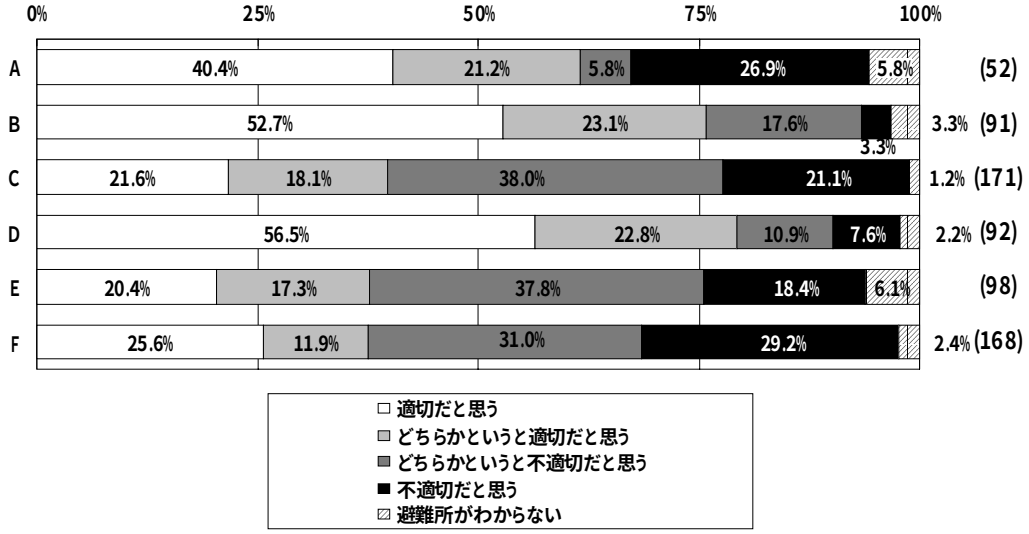

図６－４　今回の水害で実際に指定された避難所の評価（地域ブロック別）

【実際に指定された避難所が不適切だと思う理由】

・今回の水害で指示された避難所が「どちらかというと不適切だと思う」「不適切だと思う」と回答する住民に対して、避難所が不適切であると思う理由を問うたところ、その理由として「自宅から遠いから」が最も多く挙げられており全体の48.1%を占めている。そのほか、「避難経路に危険な個所があるから」は21.5%、「避難所が浸水すると思うから」は20.5%となっている。

・指定された避難所を不適切だと思う理由を地域ブロック別にみてみると、ＡＢＣＥブロックでは「自宅から遠いから」が半数以上を占めているのに対して、ＤＦブロックでは、「避難所が浸水すると思うから」の割合が多くなっていることが特徴的である。

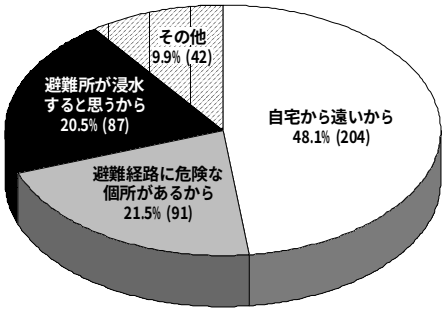

図６－５　今回の水害で実際に指定された避難所が不適と思う理由

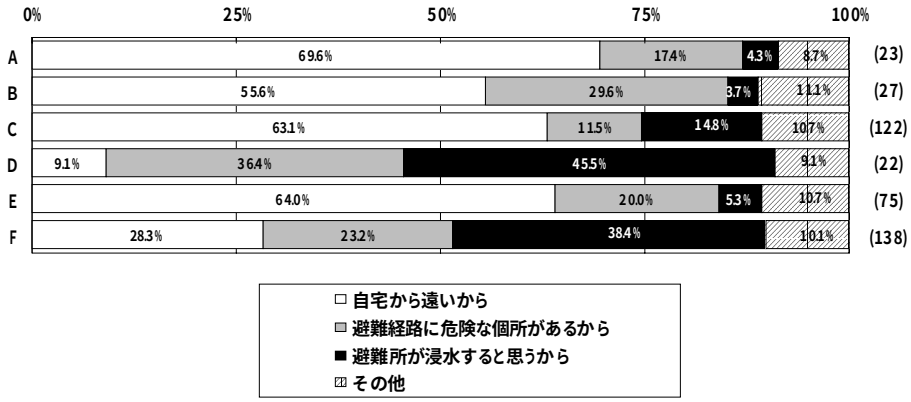

図６－６　今回の水害で実際に指定された避難所が不適と思う理由（地域ブロック別）

「避難所の指示」に関する問題点・課題

・洪水ハザードマップの避難所の指定については、「遠い」との意見や、自宅に一番近い避難所が指定されず、遠くの避難所が指定されていることに対する不満も聞かれた。洪水ハザードマップに示される避難場所の指定は、住民全体の避難行動を考えて計画されているものであるため、場所によっては自宅に一番近い避難所が指定されないこともある。あらかじめ住民に、避難所の指定を把握しておいてもらうよう呼びかけるとともに、今回の洪水の経験に基づいて、改めて避難所の場所指定のあり方を再検討することも必要である。

６－２　避難所における情報入手

point
・避難所における住民の情報ニーズは非常に高い。
・広域情報は比較的スムーズに入手できるが、個人的な情報や地域に密着した情報は入手困難。
・広域情報の入手には「テレビ・ラジオ」、個人的な情報は「口伝て、携帯電話」

ここでは、今回の水害で避難した避難所における住民の情報入手状況に関して、以下に示すような内容の各情報に対するニーズ、入手実態、入手手段を把握する。

a)　今後の雨の見通しに関する情報
b)　今後の台風の動きに関する情報
c)　郡山市における阿武隈川の水位に関する情報
d)　郡山市より上流地点の阿武隈川の水位に関する情報
e)　郡山市における出水に関する情報
f)　自宅周辺地域の被害状況に関する情報
g)　自宅の被害状況や自宅に残った家族との連絡
h)　親類･知人の家や市内各地の被害状況に関する情報
i)　いつ頃自宅に帰れるのかについての情報

（１）避難所における住民の情報ニーズ

・これらの各情報に関して、まず、情報ニーズについてみてみると、いずれの情報に関しても「とても欲しかった」とする住民が多くを占めている。

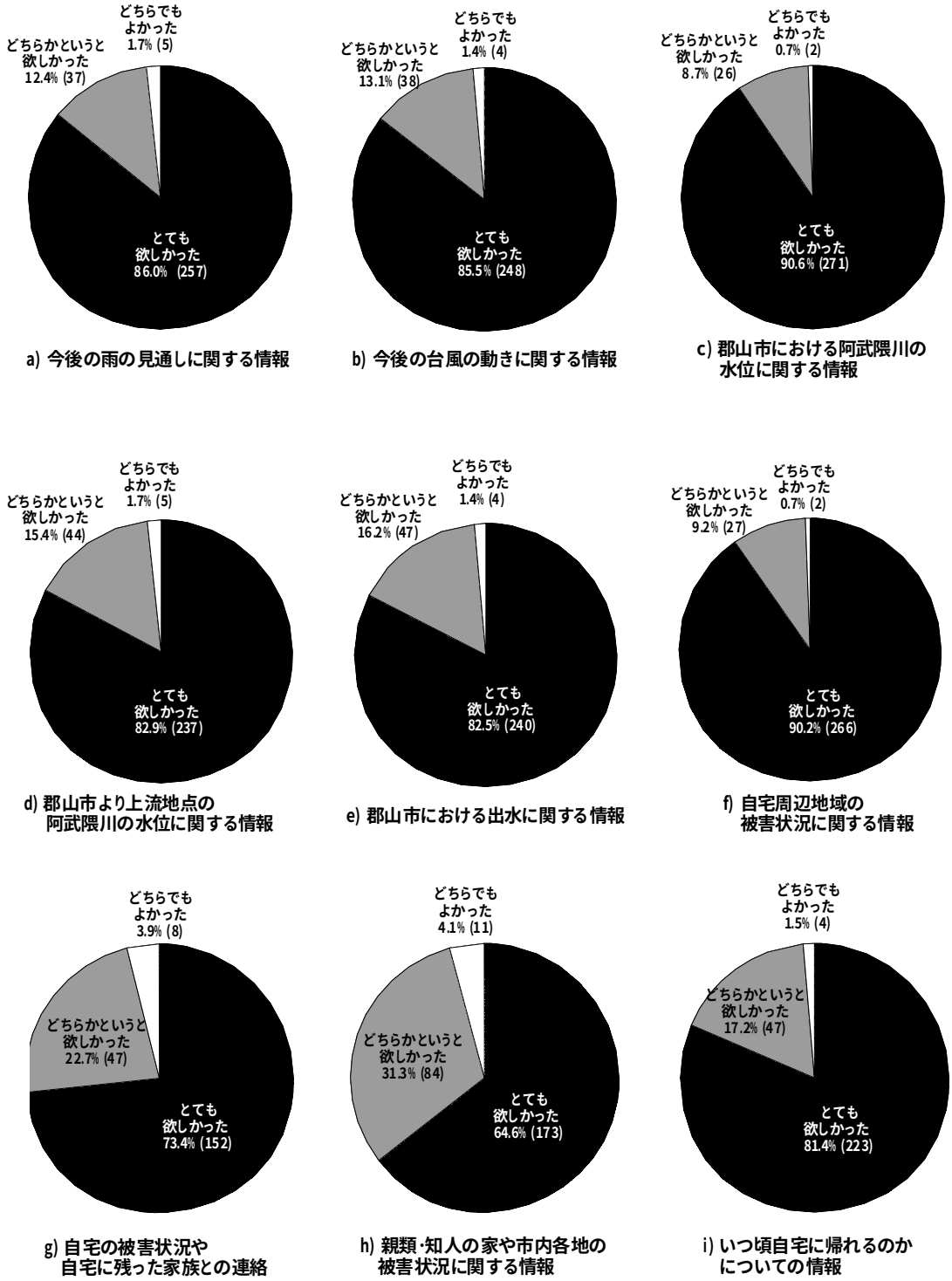

図６－７　避難所における住民の情報ニーズ

（２）避難所における住民の情報入手の状況

・情報入手実態については、a)今後の雨の見通しに関する情報、b)今後の台風の動きに関する情報、c)郡山市における阿武隈川の水位に関する情報、といった広域的な情報に関しては半数近くの住民が「スムーズに得ることが出来た」と回答しているが、f)自宅周辺地域の被害状況に関する情報、h)親類･知人の家や市内各地の被害状況に関する情報、といった住民個人に関わる情報や地域に密着した情報については、「得ることは出来なかった」「得るのは困難であった」とする回答が多くなっている。

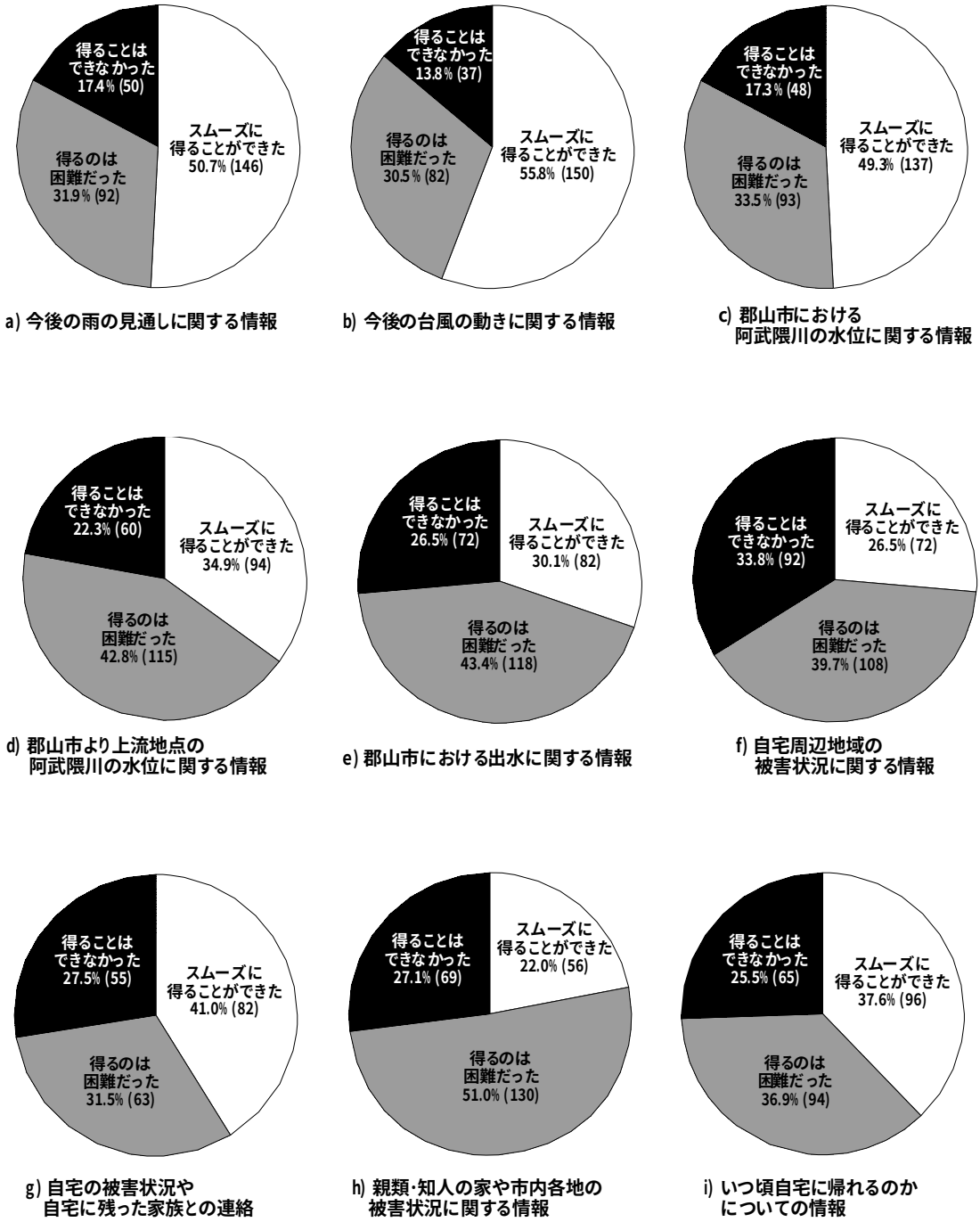

図６－８　避難所における住民の情報入手の状況

（３）避難所における住民の情報入手手段

・情報入手手段についてみてみると、a)今後の雨の見通しに関する情報、b)今後の台風の動きに関する情報、d)郡山市より上流地点の阿武隈川の水位に関する情報、などのような気象や洪水状況に関する広域的な情報の入手には、「テレビ」「ラジオ」が有効に機能している様子がわかる。その一方で、f)自宅周辺地域の被害状況に関する情報、については、「近所の人から口伝てで」入手した住民が最も多く、g)自宅の被害状況や自宅に残った家族との連絡、h)親類･知人の家や市内各地の被害状況に関する情報、については、「携帯電話」を利用して情報を入手した住民の割合が多くなっていることが特徴的である。

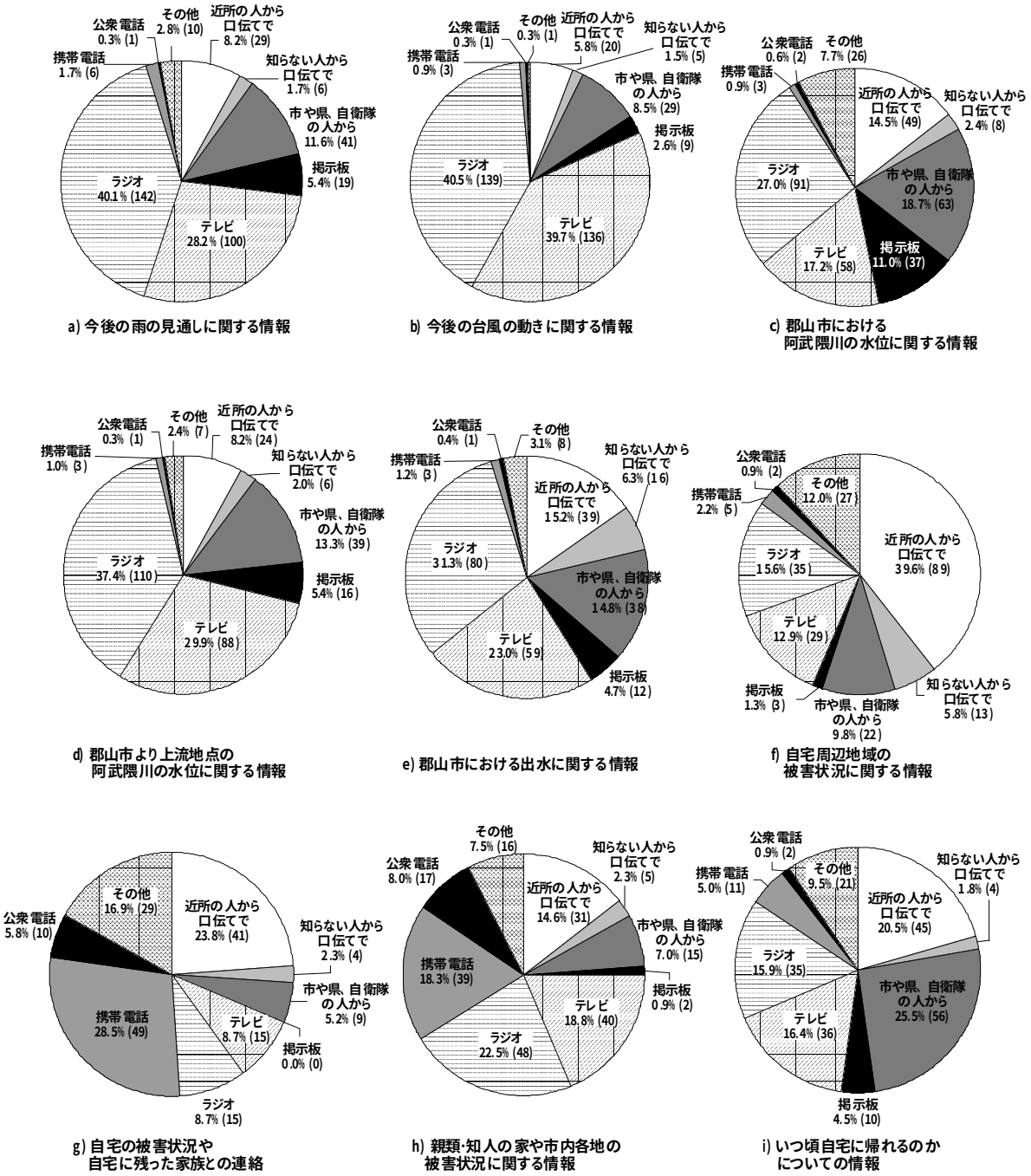

図６－９　避難所における住民の情報入手手段

避難所における情報入手に関する問題点・課題

・広域的な情報に関しては、テレビやラジオが有効に機能し、比較的スムーズに情報を得ることができた割合が多くなっている。その一方で、個人的な情報に関しては、テレビ・ラジオによる情報入手の割合は少なく、口伝てや個人の携帯電話などによって情報を入手する割合が多くなっているが、災害時には電話は混線によりつながりにくくなる場合が多く、口伝てによる情報伝達には速達性や正確性などの観点から問題が多く存在するなどして、情報入手に困難が生じている。各種の情報伝達メディアの特性を十分に活かし、それらの連携によってより適切な災害情報伝達体制が整備されることが望まれる。

避難所における情報入手に関する意見

～ Free Answer より抜粋 ～

・避難所では係りの方が24時間体制で情報をしらせてくれ、感謝します。

・避難所での生活については、自宅から多少離れており、自宅周辺の現在の様子や川周辺の水位を含めた情報が少なく、ラジオからの情報のみが頼みでした。川の水位が見られるモニターでもあれば、何回も様子見に行かなくてすむのにと思いました。

・避難しているとき自宅周辺の情報が無く、非常に心配で避難所にいても安心して避難していれない。

・情報があまり伝わらず、デマがあっちこっちで飛んでかえって心配でした。

・勧告が出て、老人がいるので避難をしたが、避難先での川の状況が分からない。

・避難所では、河川の水位だけの情報であり、通行止め地区等道路の情報が伝わらない。

・避難している人にはその地区の情報を危険が無くなるまで連続して伝えてもらいたい。

・避難所にテレビを設置してほしい。

・情報不足

etc.